

1 決算の概況

平成30年度 置賜広域病院企業団決算の概要

(1) 決算の概要

- ◎ 経常収益 159 億 67 百万円、経常費用 159 億 16 百万円、差引き 51 百万円の経常黒字。総収支では、4 億 9 千万円の純利益。
- ◎ 企業団全体の医業収支は、医業収益 133 億 9 千万円、医業費用 151 億 56 百万円、差引き 17 億 66 百万円の医業損失。
- ◎ 基幹病院(総合病院+救命救急センター)では、入院・外来とも診療単価の増にとともに、医業収益が増加となったが、給与費、薬品費、修繕費等の医業費用も増え、医業収支は 69 百万円の改善。
- ◎ サテライト医療施設では、主に長井病院の精神科病棟の閉鎖の影響により医業収益が減少したが、給与費等費用も大幅に減少したため、医業収支は改善。

(2) 平成30年度決算

(単位:百万円)

科目	企業団全体	基幹	サテライト
経常収益 A	15,967	13,728	2,239
医業収益 a	13,390	11,564	1,826
対前年度増減	492	580	▲88
医業外収益	2,577	2,164	413
経常費用 B	15,916	13,838	2,078
医業費用 b	15,156	13,140	2,016
対前年度増減	317	510	▲193
医業外費用	760	698	62
医業収支 C (a-b)	▲1,766	▲1,576	▲190
対前年度増減	174	69	105
経常収支 D (A-B)	51	▲110	161
対前年度増減	6	29	▲23
特別損益 E	439	639	▲200
総収支 D+E	490	529	▲39
対前年度増減	43	65	▲22

(3) 病院ごとの医業収支の概要

病院	概要
基幹病院	医業収益の増加により医業収支は改善 ・前年度取得した一般急性期入院料 1(7 対 1)の維持や新規の診療加算適用による入院収益増、及び高額医薬品使用患者の増加等による外来収益増により、医業収益は増加。一方、給与費、薬品費、修繕費等の医業費用も増加し、収支は、前年度に比べ 69 百万円改善した。
長井病院	精神科病棟閉鎖により医業収支は改善 ・精神科病棟の閉鎖により医業収益は減少。精神科病棟に係る医業費用が大幅に減少したため、収支は、前年度に比べ 1 億 1 千万円改善した。
南陽病院	給与費の増加により医業収支は悪化 ・9 月からの地域包括ケア入院管理料 1 取得により、医業収益は増加。取得のための職員や病院改築関係職員の増により、医業費用も増加し、収支は、前年度に比べ 9 百万円悪化した。
川西診療所	診療単価の増と経費縮減により医業収支は改善 ・延患者数は減となったが、診療単価の増加により医業収益は増加。除雪費委託料の減により医業費用も減少し、収支は、前年度に比べ 4 百万円改善した。

2 患者の概況

(1) 入院

- 入院収益は、延患者数が大きく減少したものの、診療単価が増加したため、2 億 55 百万円の増加。
- 延患者数は 171,007 人で、前年度と比べ 8,088 人の減少。
- 診療単価は 50,594 円。うち基幹病院は、H29.11 月に取得した一般急性期入院料 1(7 対 1)の維持などにより、前年度に比べ 2,325 円上昇。サテライトは、長井病院が一般病棟のみとなったことで、前年度に比べ 3,159 円上昇。



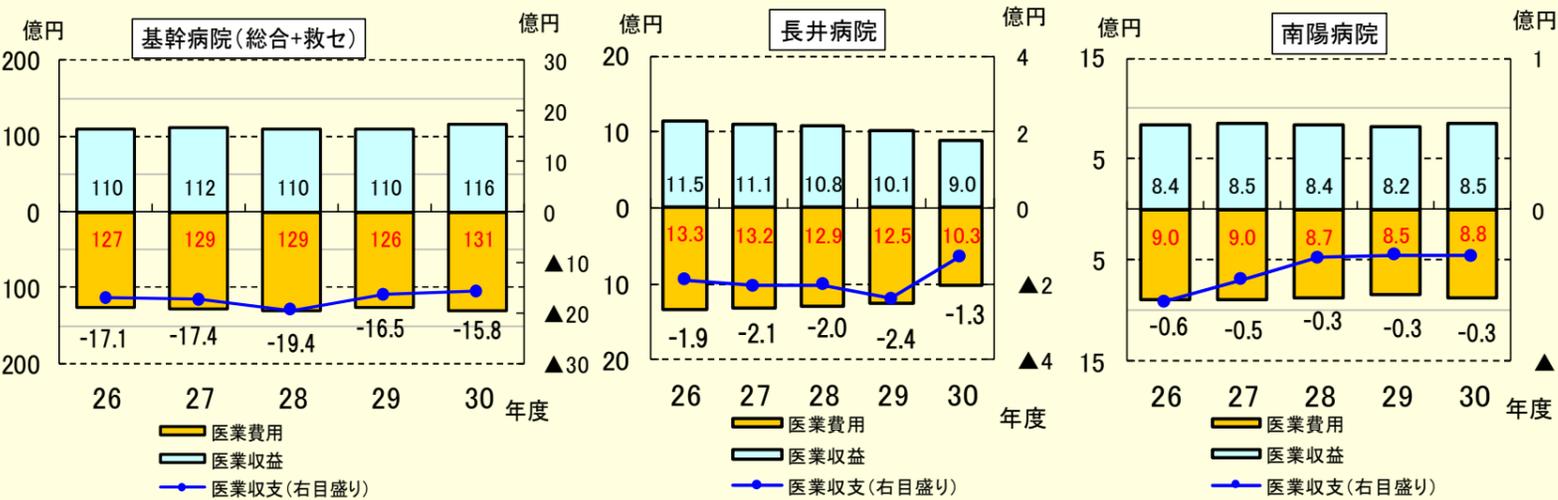
(2) 外来

- 外来収益は、延患者数がほぼ横ばいであったものの、診療単価が上昇し、2 億 34 百万円の増加。
- 延患者数は 334,240 人で、前年度と比べ 251 人の増加。
- 診療単価は 13,113 円。うち基幹病院は、前年度に比べ 761 円上昇。サテライトは、前年度に比べ 398 円上昇。

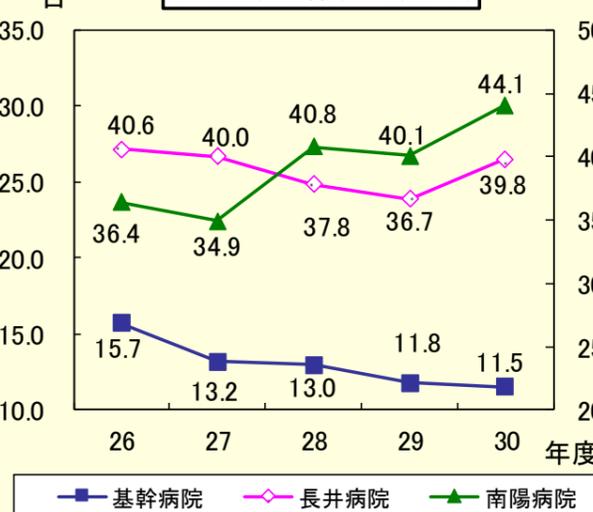


3 各指標の状況

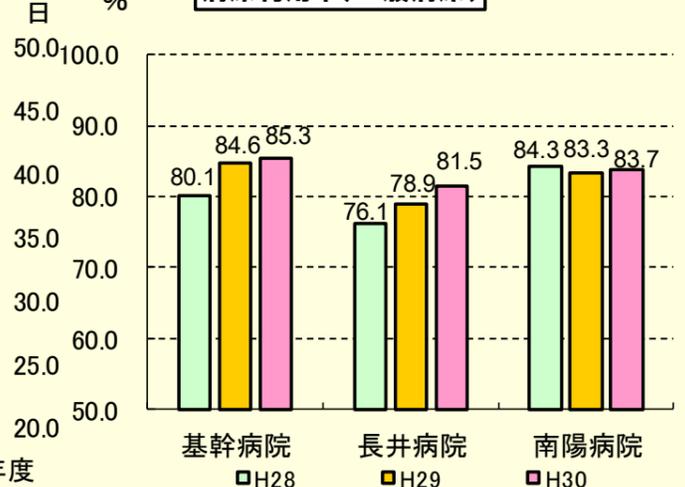
医業収支



平均在院日数(一般病床)



病床利用率(一般病床)



※稼働病床数で算出